

## 質の高い教員の基礎を育成するためのディベート実践

教育心理学教室・富田英司

保健体育教室・田中雅人

### 目的

本学部の学生は比較的安定した友人関係を持ち、キャンパスで賑やかに会話し、授業内でもスムーズにグループワークに参加できている。その点では彼らのコミュニケーション力は高い。また、プレゼンテーションや就職面接の練習において効果的に説明できる者も多い。つまり、教員養成学部の学生は、親しい者との日常会話やフォーマル場面での一方的伝達については、既にある程度スキルを持っている。しかし、その2つの間にあるような場面ではその限りではない。例えば、知人や教員、学校関係者等との打合せや世間話、ゼミ等での議論等において、彼らは適切な談話ジャンルや非言語的行動を活用できず、ぎこちない会話になりがちであり、意見交換や合意形成、問題解決をおこなうことが難しい。

このような比較的公の場でインタラクティブに話し合いをする言語的能力や行動レパートリーの獲得は、就職対策などとして4年生になってから付け焼き刃のように訓練の場を設けても実質的な教育効果は期待できない。むしろ、入学した直後から、大学が一般社会の一部であるという形で、企業や学校等で普段おこなわれているようなコミュニケーションの作法を当たり前のこととして入学生に求めていくことが重要である。しかし、そのためには、共通教育やその他の教育のあり方を社会構成主義的な教授学習観に基づいて変更する必要がある。

そこで、教職教養課題特講 I では、そのような方向性に少しでも寄与できるよう、従来おこなっていた愛媛県の優れた実践家による講義や模擬授業に加えて、コミュニケーションの実践的な訓練の場を半分程度設けた。

### 授業の概要

対象授業 「教職教養課題特講 I」は2年次の後学期に受講することが想定されている。履修した113名のうち、最終的に評価の対象となった者は96名であった。このうち、81名程度が学校教育教員養成課程もしくは特別支援教育教員養成課程の学生であった。担当者は、保健体育教室の田中雅人准教授と教育心理学教室の富田英司准教授の2名であった。

教科書 『大学1年生からのコミュニケーション入門』中野美香著 ナカニシヤ出版

授業スケジュール 第1回授業の前半はオリエンテーションをおこなった。第2回授業の後半から第3回到教科書を使って、ディベートの方法について実習を織り交ぜながら、解説をおこなった。第3回では、最初の試合に取り組んだ。その後、第4回、第7回、第10回、第12回、第14回、第15回は試合を中心として、必要なインストラクションを授業の最初におこなった。ほとんどの回では、ビデオまたはICレコーダー授業評価 最後の授業において記名式の振り返りアンケートをおこなった。その項目は多岐にわたっており、本報告書ではその一部のみの報告とする。

### 結果(1)：全体的な印象の変化とその理由

ディベートを始める前と比較して「ディベート」に対するイメージがよくなったかどうかを尋ねたところ、97名のうち、79名が良くなったと回答した。そうでない18名のうち、1名は元々良い印象を持っていたという点で、良くなっていないと回答したという自由記述があったことから、この1名については以下の分析から除外した。

上記の判断理由を明らかにするために、表にあるような項目についてどの程度当てはまるか回答を求めた。それぞれの平均値を比較したところ、項目(3)が他の項目よりも際だって高いことが分かった。自由記述でもこれらの評定について回答を求めたところ、

「ディベートの難しさを改めて感じたことが大きい」  
「全体的に強制されている感じが少しあった」という  
2つの回答が得られている。

このことから、来年度の授業では難易度に特に留意し、スモールステップでの展開を進めていきたいと考えている。また、論題についても、かなり初期の段階から教育時事に関する知識を扱ったことが問題かもしれない。その点について、より日常的な話題でのゲームの回数を増やすと共に、Moodle等のオンライン学習を授業時間外に充実させることでディベートに必要な高度な知識を予め身につけて貰うという対策を取りたい。

### 結果(2)：自由記述

以下では、授業に関する全体的な感想として得られたもののうち、ディベートに関するものについて全件を列挙しておく：「ディベートの試合が多く、知識や技能がなかなか追いついていかなかった」、「ディベートを重ねるごとに人に物事を説明するのが上手くなり、分かりやすく伝えることができるようになった」、「ディベートの授業を通し、ディベートのスキルは自分自身ではあまり向上したとは思えない。しかし、ディベートをするにしても、知識が必要ということを知った。もっといろいろなことに目を向け、様々なことを知りたい」、「ディベートの成果はあったかどうか自分ではあまりよく分からなかったけど、2分や3分間話すことに抵抗はあまりなくなりました」、「どの授業よりも一番活発に活動することができたと思います。グループで集まる際にも、ひとまかせではなく、自分から進んで行く、発言する大切さを感じることができました」、「ディベートをする中で、時間の感覚についてもふれることができなかった。まだまだだが、今後もっと感覚をみがいていきたい。また、今まで話したことのなかった人

と関わることができたのは、とてもよかった。本当は自分からそういう機会をつくるべきなのだろうが、できていなかったので」、「ディベートの実践の場面が多かったので、自分の成長を感じることでよかったですと思う」、「友達と授業以外の時間で自主的に討論できればいいと思う」、「議論は練習をすることで上手くなると実感しました。これからも伝える力を鍛えていこうと思います」、「実践を多く繰り返す授業であったので、ディベートをする力は身に付いたと思う。何回か同じ論題で議論することがあったので、もっとたくさんの論題で議論してみたい。また、教育とは関係がないようなものも、ウォーミングアップとして論じてみたいと思った」、「ディベートと言うと、話す順番がどうこうではなく、思いついた時にやんややんやと討論する、というイメージがありました。それが今回の授業で、形式のあるものを学び、体験することができてディベートというものにも色々なものがあるのだなと知ることができました」、「ディベートの回数をこなすごとに自分の意見が言えたり、相手の意見を想像するのが楽しかった。他の人の意見交換、反省もうまくいくとおもしろく感じた」、「始めはあたり前のことを叱られて、今思えば大学になって叱ってくれる人はそんなにいないので、あたり前のことをあたり前に行うことができるようになった。準備や課題は本当に大変だったけれど成果がみえる授業だった。楽しかったし、主体的に取り組めた。それは先生の熱心さが伝わったから」、「授業のコメントが次の授業で紹介、解説されていて、学生の意見に対する反応が返ってくるのが良かったです」、「もっとディベートをして練習したかった」、「はじめて、ディベートについての授業を受けて、知識が深まったことが実感できたし、初回の授業と比べて、ディベートに対する意識が変わった」、「ディベートができる授業は少ないので、とても貴重な体験ができてとてもよかったです」。

表 ディベートの印象が良くならなかった理由として評定を求めた項目とその代表値 (5段階,  $N = 17$ )

番号	項目	平均	標準偏差
(1)	ディベートの授業がわかりにくかったから.	2.53	.87
(2)	ディベートが以前よりもできるようにならなかったから.	2.88	1.22
(3)	ディベートをやってみたら難しかったから.	4.00	1.12
(4)	友達と一緒に活動するのが楽しくなかったから.	2.18	1.01
(5)	意見のよさを競うことが楽しくなかったから.	2.82	1.13
(6)	情報収集や原稿作成などの準備が楽しくなかったから.	2.76	1.20
(7)	話すことが楽しくなかったから.	2.47	1.18
(8)	自分の主張をすることが楽しくなかったから.	2.82	1.07
(9)	相手に反論・質問されるのが楽しくなかったから.	2.18	1.01
(10)	自分とは異なる意見を知るのが楽しくなかったから.	1.76	.75
(11)	論題について知識を得るのが楽しくなかったから.	2.00	.79

